

## 校庭の植物 1. オオイヌノフグリの仲間と見分け方

岡本 素治

私たちの周りにはたくさんの植物が生きています。学校を例にとれば、校内緑化や教材用に植えられた植栽木、教科や情操教育の一環として育てられた花壇の草花、そして誰が植えたわけでもないのに生えてくる「雑草」、……。その由来はさまざまでも、よく観察すれば、どれもじつに興味深い秘密を秘めています。「雑草」と呼ばれている植物も、引き抜いてそのままうち捨てておくにはもったいないような教材の宝庫です。でも、その宝の山に近づくためには、どれとどれが同じで、どれとどれが違うか区別する力が必要です。少しでも多くの植物を覚え、親しくなってもらえるように、学校のまわりでよく見られる植物のおもしろい特徴や見分け方などをシリーズで紹介しようと思います。

最初は、オオイヌノフグリの仲間の見分け方です。この仲間は、おもに春に花を咲かせる越年性の一年草で、花の時期であれば、花の大きさで簡単に見分けることができます。

オオイヌノフグリ：花は直径7～8ミリ、空色；果実はやじり型、やや偏平であらい毛がある、長い柄があり横向きに付く；茎は這い、先端は立ち上がる；葉には4～5対の鋭い鋸歯があり、上面にあらい毛を散生する。西アジア原産、日本には明治の中頃に帰化。

イヌノフグリ：花は直径5ミリ以下、ピンク色；果実はひょうたん型、短毛が密生、短い柄があり下向きに付く；茎は這い、先端は立ち上がる；葉には2～3対の鋸歯があり、上面はほとんど無毛。

タチイヌノフグリ：花は直径5ミリ以下、紺色；果実はハート型で偏平、縁に毛がある、ほとんど無柄で上向きに付く；茎は基部から枝分かれして立つ；葉には数対の低くて丸い葉があり、両面に短毛がある。

ヨーロッパ・アフリカ原産で明治の初期には日本に入っていた。

フラサバソウ：花は直径5ミリ以下、白または薄赤紫色；果実はややくびれた楕円形の球体、毛はない；茎は這い、先端は立ち上がる；葉はやや厚く、1～2対の大きな歯があり、表面にあらい毛がある。ヨーロッパ原産で明治の初期に入っていた記録があるが、最近とくに増えている。

街中や人里近くに見られる上記の4種類のうち、日本に昔からあったのはイヌノフグリだけで、あとは明治時代以後に外国から入ってきた植物です。名前がいちばん簡単であるということは、イヌノフグリが早くから日本人になじみの植物であったという証拠だとも言えるでしょう。果実が犬のふぐり（陰囊）に似ているということからの命名です。そんな親しみがこめられた（？）名前がつく程、かつては普通にあ



オオイヌノフグリ



イヌノフグリ



タチイヌノフグリ



フラサバソウ

った植物らしいのですが、今ではほとんど見られません。地域によっては絶滅危惧植物にリストアップされていることもあるようです。オオイヌノフグリの方が圧倒的にポピュラーで、俳句の世界では「いぬふぐり」というとオオイヌノフグリを指すまでになっています。

そんなイヌノフグリですが、街中の学校の周辺でも発見できる可能性があります。古い石垣のすき間を探すのです。写真にも写っているような、御影石の切石を積んだ石垣のすき間によく見られます。石垣のすき間に入り込めるには理由があります。イヌノフグリの種子にはアリが好きな付属物がついているのです。アリはイヌノフグリの種子を集めて巣に運び、付属物を切りはずして食料とし、種子本体は巣のまわりに捨てます。こうしてイヌノフグリはアリの巣の近くに芽を出すことができます。イヌノフグリは他の植物に覆われることのない石垣で生き延びている植物だと思われるます。

タチイヌノフグリも石垣のすき間に見られることもありますが、種子には特別な付属物は付いていません。風に飛ばされているような場所に散らばるものと思われるます。

フラサバソウとは奇妙な名前ですが、これはこの植物を日本から初めて報告したフランシェとサバティエという二人の学者の名前に由来します。二人が書いた明治初期の日本植物のリストにこの植物があったのですが、日本人研究者は見付けることができませんでした。その後、長崎で採集された明治初期の標本が発見されて、本当だったということでこの名前が送られました。

他の種類の種子は1～2ミリですが、フラサバソウは2～3ミリの大きな種子をつけます。そのせいか、一度定着した場所にはいつまでも居続ける傾向があります。新しい場所にどうやって運ばれているのかは不明ですが、工事の土などに混じって運ばれることが多いのでしょう。

(おかもともとはる：自然資料館館長)

## たった100年前がわからない！？

山岡 邦章

現在、考古学の世界では、やれ高松塚やら、弥生時代の年代やらで、非常に精細な年代が追求されつつあります。先日も、奈良県桜井市の箸中山古墳（箸墓）の年代が3世紀の前半に遡るのではないかというニュースが新聞紙上に流れました。こういった、有名どころの遺跡は研究者も多く、緻密な研究が続けられて、大きな成果を挙げています。でも、そんな昔のことではなく、たった100年前、明治時代以降のことが、考古学では全くわからないのです。

第28号で紹介しました岸和田煉瓦もその一つです。昨年、さらに岸和田煉瓦の跡地の再開発に伴い、現地で古い煉瓦を採取する機会がありました。

現地を歩くと、いくつもの煉瓦が転がっていますが、その大きさや種類がバラバラなのです。よく観察していくと、その違いは煉瓦の製造年代の違いが現れているように見えます。そこで、製造技術的に古そうな「手成型－手仕上げ」～「機械成型－機械仕上げ」～「機械成型（JIS規格）」へと年代的に並ぶように採取してみました。こういった作業は考古学の得意とする分野で、今まで土器の年代を特定し、土器編年という、時代を測る「ものさし」をいくつも作り上げてきました。だから考古学者は「う～ん。これはいついつの時代の土器だね」とまるで見てきたかのようなことが言えるのです。

ところがです。この煉瓦が難敵でした。形態差が50パターンくらいあり、うまく古い順に並んでくれないのです。また、文献にも形態差が反映される記録などが無く、今現在も手探り状態です。

ここまで読んできて、皆さんは「なんで煉瓦なんか・・・研究するの？」と疑問に思われるかも知れません。もちろん公務では研究していません。余暇を使い研究者数人とで個人的に研究を進めています。でも、こういった基礎的な研究があつてこそ、全国各地に残る煉瓦を使用した建物・構造物の建築、建造年代を特定する考古学的な資料とすることができるのです。それに煉瓦建造物は、その特殊性から秘密にされることが多い、旧陸軍、海軍の施設に多く、こういった施設の解明に役立ちます。例えば枚方市の禁野火薬庫跡地の調査では、破片一つが、秘密にされた大爆発事故に関する考察に大きな役割を果たすことになるのです。また、近場では紀淡海峡にある由良要塞群、友が島砲台の施設の研究にも役立ちます。それに有名な世界遺産の「原爆ドーム」だって煉瓦建造物なのですから。

もうおわかりですね。高松塚だけが歴史ではありません。日本の歴史の大部分はこういった瓦礫程度にしか扱われないものの積み重ねです。こういったものが研究されてこそ、総合的な研究が行われ、はじめて我々庶民の暮らしぶりが解き明かされてゆくのです。王侯貴族の歴史は華やかで見栄えがするかも知れません。でも、一般の暮らしぶりや社会状況が解き明かされてこそ、良質の学問と言えるのではないのでしょうか。

たった100年前の煉瓦が解明されていない。これが考古学の醍醐味ではないかと思っています。皆さん

の身の回りにも、考古学的手法で解き明かしていけそうな、「歴史」がまだまだたくさん転がっています。  
例えば瓦礫やゴミであっても。

(やまおかくにあき：郷土文化室文化財担当)

## Information

### ■自然資料館からのお知らせ■

#### 特別展「」

夏休みの自由研究に植物採集と標本作りに挑戦してみませんか？身近な植物を採集して、植物の押し葉標本の作り方を勉強しましょう。当日、採集して、押し葉にしたものは、約2週間後に台紙に張れば、完成です。

- ・日 時：2008年7月27日(日) 午前10時40分～午後4時00分(雨天中止)
- ・場 所：府営蜻蛉池公園周辺
- ・講 師：田端 敬三氏(近畿大学農学部 講師)ほか自然資料館スタッフ
- ・定 員：45名(小学生以下は保護者同伴で・応募者多数の場合は抽選)
- ・費 用：一人50円(保険代)
- ・申 込：2008年7月1日(火)～7月16日(水)(必着)の間に「植物」係まで
- ・主 催：岸和田市教育委員会・(財)大阪府公園協会

#### 楽しく学ぼう地球の秘密・化石と岩石3日間教室

化石や岩石、鉱物など、地学のおもしろさを知ってもらうため、地学についてのお話と、さまざまな地学に関する実習を行います。作ったものは、持って帰ることができます。おとなの方だけの参加も歓迎しますので、ぜひご参加ください。

- ・日 時：2008年8月8日(金)・9日(土)・10日(日) 午後1時30分～4時00分
- ・8日(金)：化石レプリカ取り出し体験
- ・9日(土)：大阪府で見られる岩石プレートづくり
- ・10日(日)：鉱物の砂で作る万華鏡づくり
- ・場 所：自然資料館1階ホール
- ・講 師：廣木義久氏(大阪教育大学准教授)ほか
- ・定 員：小学生以上30名(小学生は保護者同伴で・幼児同伴はできません。応募者多数の場合は抽選)

※どの日も、展示室や標本を使つての説明(予定約1時間)を行います。

- ・費 用：高校生以上200円(入館料)
- ・申 込：7月15日(火)～28日(必着)の間に「化石と岩石」係まで

#### ※自然資料館のイベントの申し込み方法

往復はがきか電子メール(携帯電話のメールは不可)で、参加者全員の〒住所・氏名・年齢・電話番号(「楽しく学ぼう地球の秘密」に参加希望の方は参加希望日もご記入ください。全日参加も可能です。)を記入し、申込期日までに、きしわだ自然資料館「植物」係あるいは「化石と岩石」係(宛先は下記)まで。

### ■岸和田城の展示案内■

#### 企画展「新収資料展—市民から寄せられた文化財」

- ・会 期：5月14日(水)～7月13日(日)
- ・内 容：最近、市にご寄贈いただいた資料の中から、美術工芸資料や郷土の歴史資料約50点を選んで紹介します。

#### 企画展「郷土の書画」特別陳列「新島襄の手紙」

- ・会 期：7月16日(水)～9月28日(日)
- ・内 容：江戸～昭和期に活躍した岸和田ゆかりの画家や文化人たちの書画作品約20点を展示します。また、同志社の創立者として知られる新島襄と、岸和田との関わりを示す新島直筆の手紙をあわせて公開します。

#### ※岸和田城の開館日時・入場料

- ・時 間：午前10時～午後5時(入場は4時まで)
- ・入場料：大人300円 中学生以下無料
- ・休場日：月曜日(但し7/21・9/15は開場します)

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

#### 連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館  
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101  
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp  
自然資料館ホームページ URL:  
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>  
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)